

(特非) 府中市スポーツ協会主催及び加盟団体主催・主管大会運営に係る 危機管理マニュアル

平成30年8月28日
(特非) 府中市スポーツ協会

1 目 的

本マニュアルは、大会等における事故の防止対策及び万が一の事故等が発生した場合を想定しての事前対策及び発生時の応急対策、それに引き続く事後対策について規定するもの。

2 対 策

(1) 事前対策

毎年適切な時期に、(特非) 府中市スポーツ協会加盟団体に対し、危機管理体制の周知

徹底を図る。なお、万が一に事故が発生した場合を想定し、大会等を主管する団体は大会会場周辺の救急病院を掌握しておくこと。

大会規模や種目に応じて、医師及び看護師或いはアスレティックトレーナーを配置することとする。その他必要に応じて、保険の加入及び事前に大会場所の近隣の医療機関に対応依頼等を行い、調整しておくこと。

また、当日の会場準備については、器材などが風にあおられて倒れたり、飛ばされたりすること等がないよう事故防止には万全を期するとともに、下記の事項について、事前によく調べておき決定しておく。

- ① 当日の天気予報。(特に大雨や雷雲などについて)
- ② 避難場所・誘導経路の確認。(観客も含む)
- ③ 活動中止の決定、連絡フローの決定。
- ④ 熱中症予防のためのWBGT(暑さ指数)の測定計の用意。
- ⑤ 地震や天気予報等の速報を聞くことができるラジオ等の用意。
- ⑥ AED設置の確認あるいは用意。

(2) 応急対策

- ① 事故等が発生した場合、主管団体が中心となり応急手当を実施する。さらに、怪我の状況を判断し、状況に応じて119番通報等(救急病院搬送の手配)を行うとともに、府中市スポーツ協会に怪我人の氏名、状況等を連絡する。
- ② 府中市スポーツ協会は、状況を把握するとともに、大会等主管団体担当者と連携を取り円滑な対応ができるようにする。

(3) 事後対策

- ① 大会等主管団体担当者は、事故報告書を作成の上、府中市スポーツ協会及び府中市ス

ポーツ主管部署に送付する。

② 府中市スポーツ協会は、状況を把握するとともに、大会主管団体とともに、誠意をも

って事後処理にあたる。府中市スポーツ協会もしくは主管団体等において、保険金又

は見舞金請求手続きがある場合は速やかに保険会社と連絡調整する。

3 警報発令時の対応について

(1) 大会前日もしくは当日、あらかじめ設定した時点で（当該地区限定の気象情報にて）大雨・洪水・暴風のいずれかの警報が発令されている場合、大会等は中止とする。

(2) 大会実施中に警報が発令された場合、屋外競技については参加者を最寄の安全な場所に避難誘導し、警報が解除されるまで安全確保に努める。

屋内競技については、参加者が施設から出ないように対応し、警報が解除されるまで参加者の安全確保に努める。

4 雷への対応について

屋外種目については、事前に気象情報等を確認するなど。雷の発生に細心の注意をはらい、落雷事故防止に万全を期すこと。

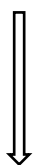
『落雷防止対策マニュアルについて』

(1) 行動のながれ

① 雷の察知（雷光・雷鳴）

② 雷の監視（雷光+雷鳴） ★参考 目視から聴音 10 秒 3.5km

③ 避難行動（参加者を安全な場所へ避難誘導）



☆入道雲が発達した時や頭上に厚い雲が広がったら、速やかに避難する

☆入道雲、雷鳴及び雷警報器等から察知、判断し避難行動の対応をする。

《試合を「停止」「中止」》

④ 試合「再開」あるいは「中止」

「試合再開」

●判断基準⇒(1)雷鳴・雷光がなくなって 30 分経過

(2)気象庁等関係機関に確認する

「試合中止」

●判断基準⇒(1)30 分経過後も間断なく雷鳴、雷光が続いている場合

⇒(2)「再開」が可能であっても日没等で試合続行が不可能な時

⇒(3)グラウンド、コート等がプレー不可能な状況の時

★再開基準については、日本サッカー協会では雷鳴・雷光がなくなって 20 分と

しているが、安全を期するため 30 分程度とする。

《その他》

★携帯型雷警報器「ストライクアラート」を落雷事故防止補助機として用意する。
文献『雷から身を守るには～安全対策 Q&A～改定版』（日本大気電気学会編、平成 13 年発行）参照

5 熱中症への対応について

『熱中症事故等の防止について』

- (1) 熱中症は、未然に防止できること及び児童・生徒を始めとする大会参加者の健康や生命に甚大な影響を与えることを、大会運営者が十分に認識した上で実施すること。
- (2) 参加者に、自己の健康管理に十分留意するよう繰り返し注意喚起すること。
- (3) 高温時に大会等を実施する場合においては、試合数・内容・時間・場所等を変更するなど柔軟に対応するとともに水分補強や休憩を励行し、適切な対策を講じること。

★熱中症予防のための運動指針

WBGT（暑さ指数）での運動指針（日本スポーツ協会）

※ WBGTとは、人体の熱収支に影響の大きい気温、湿度、輻射熱の3つを取り入れた指標で、乾球温度、湿球温度、黒球温度の値を使って計算します。

WBGT (℃)	湿球温 (℃)	乾球温 (℃)	運動は 原則中 止	WBGT31℃以上では、皮膚温度により気温の方が高くなり、体からの熱を逃すことができない。 特別の場合以外は運動を中止する。
31	27	35		
28	24	31	嚴重注 意	熱中症の危険が高いので、激しい運動や持久走等は避ける。体力の低い者、熱さに慣れていない者は運動を中止。 運動をする場合は積極的に休息をとり、水分補給を行う。
25	21	28	警 戒	熱中症の危険が増すため、積極的に休息をとり、水分を補給する。激しい運動では 30 分おきくらいに休息をとる。
21	18	24	注 意	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意しながら、運動の合間に積極的に水分を補給する。

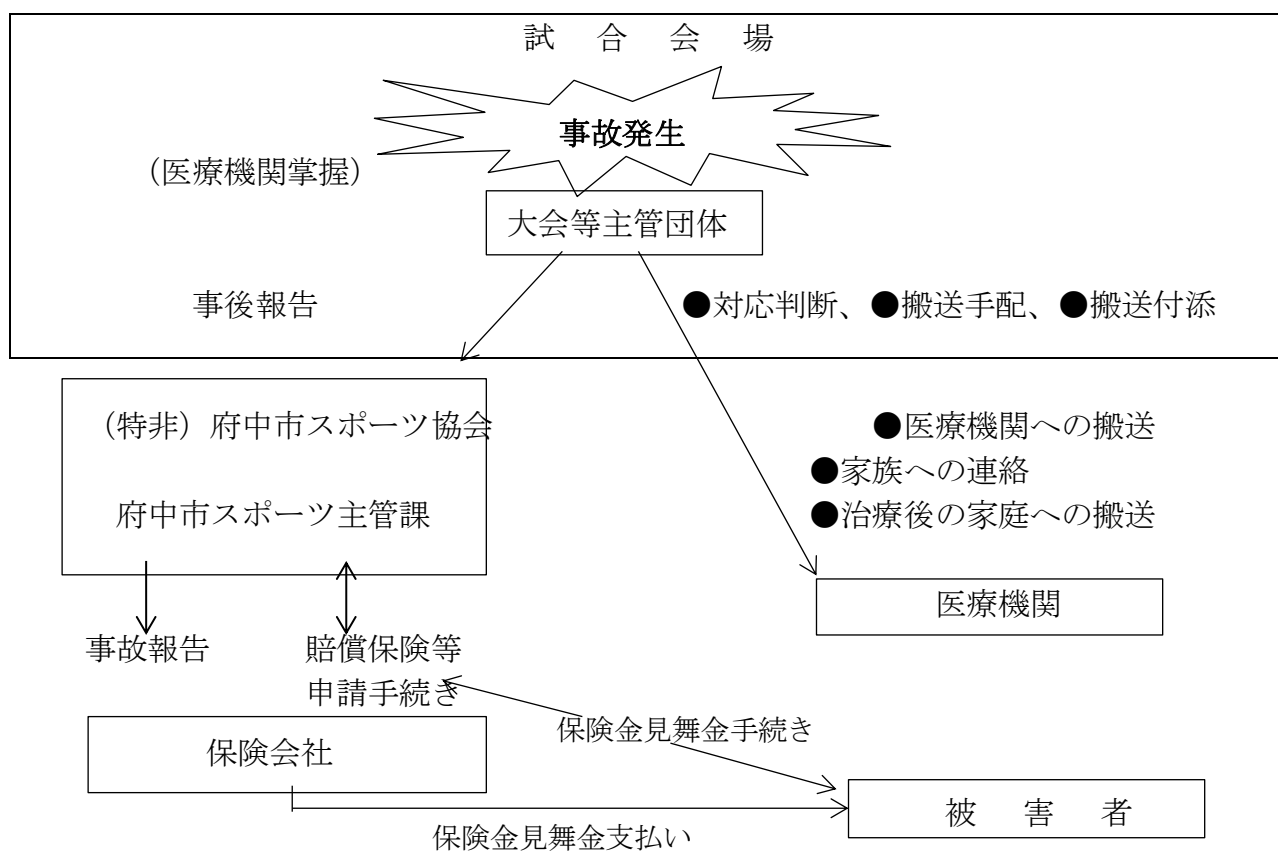
※ WBGT（暑さ指数）の算出方法

屋外：WBGT＝0.7×湿球温度＋0.2×黒球温度＋0.1×乾球温度

屋内：WBGT＝0.7×湿球温度＋0.3×黒球温度

- ※ 環境条件の評価はWBGTが望ましい。
- ※ 湿球温度は気温が高いと過小評価される場合があり、湿球温度を用いる場合には乾球温度も参考にする。
- ※ 乾球温度を用いる場合には、温度に注意。温度が高ければ、1ランク厳しい環境条件への注意が必要。
- ※ WBGT 近似値を測定して熱中症危険度を表示する「携帯型熱中症計」等の使用を考慮すること。

救急システム関連図



6 その他

- (1) 府中市スポーツ協会加盟団体が主催する大会については、このマニュアルを基準として、危機管理マニュアルを作成し、実施するものとする。